

紀元前1050~537年

サウル王からバビロンの捕虜期間

イスラエルは紀元前1050年に最初の王であるサウルから始まって二番目のダビデ王が、強かに国を統一しました。そして、ダビデの息子、ソロモン王が統治していたときは、周辺国家に、とても大きな影響を及ぼす国になったのです。

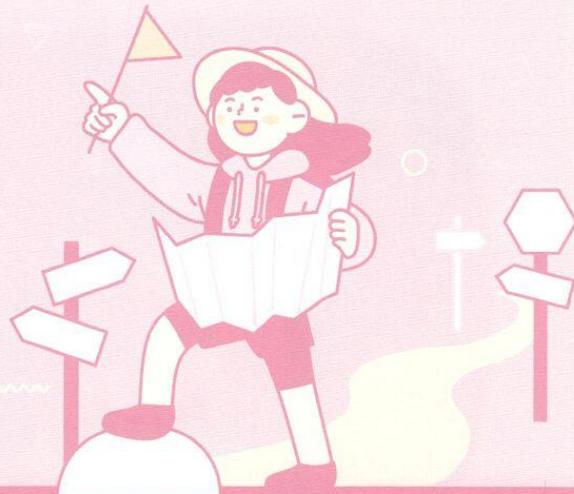
しかし、紀元前931年に、ソロモンの息子レハブアムが王位について状況が変わりました。強かだったイスラエルの国が北側のイスラエル王国と南側のユダ王国に分裂してしまいました。イスラエル王国は10部族が連合して、ソロモンの臣下であったヤロブアムが統治しました。そして、ユダ王国はユダ部族とベニヤミン部族の連合で、ソロモンの息子レハブアムが統治するようになりました。このように分裂した国は、紀元前722年、アッシリヤによってイスラエル王国が先に滅亡して、約100年が過ぎた後には、ユダ王国がバビロンによって滅亡するようになりました(紀元前586年)。

特に、ユダ王国は、この過程で三回も侵襲されました。バビロンの王ネブカデネザルは、侵略するときごとに、自分の思うままに王を変えて、神殿の聖なる器具を略奪しました。そして、王族と貴族、技能のある人を捕虜として捕まえて行くことさえしました。そのように捕えられた人々の中に、私たちがよく知っているダニエルと三人の青年、エゼキエル預言者などが含まれています。

イスラエル王国は、このことによって大きい衝撃を受けました。そして、過ぎた日を振り返って、自分たちの人生を反省し始めました。彼らは、以前のように、神殿でいけにえをさげることができなくなったので、神様が願われる生活について再び質問しました。そしてサムエル預言者のことば(1サムエル15:22)のように、神様のみことばに耳を傾けて、それを守って従順にすることを、もっと価値があると考えるようになりました。そこで、異邦の地で「会堂」を作って集まり、そこで安息日を守り、教育を通して、自分たちのアイデンティティを守るようになりました。

そして、いよいよ紀元前539年、約70年間の捕虜期間を送った後、エレミヤの預言(エレミヤ25章)のとおり、捕虜から解放されて出て来ることができるようになりました。神様は、ペルシャのクロス王をたて、バビロンを崩され、ユダヤ人に向かって本国に戻りなさいという勅令を宣言するようになされました。

聖書は1冊ですが、内容は66巻で、できています。そして、その66巻は大きく旧約39巻、新約27巻に分けることができます。旧約の最後の巻はなんですか。「マラキ書」です。マラキ書の次は、新約のマトイの福音書になっていますが、すぐに続いて書かれたかのように勘違いするかもしれません。しかし、その二つは、続いて書かれたのではなく、旧約で見ることができなかった内容が新約で現れます。あまりなじみがない人たち(サドカイ人、パリサイ人、ヘロデ、ポンテオ・ピラトなど)と、なじみのない地域(シリア、ユダ、イドマヤなど)が出てきて、新しい「会堂」という所で集まる姿も見ることができます。また、「ローマ」という強大国がイスラエルを支配している姿も見えます。どうして、このようになったのでしょうか。新約は、旧約から約400年という時間が流れたあとのことだからです。その間のことを「中間期」と呼んでいます。それなら、イエス様の働きをさらによく理解するために、また、弟子たちとパウロの伝道旅行をさらに知るために、この期間の事件はとても重要です。多くの事が起こった期間だと、少し複雑に思うかもしれませんが、いっしょに過去に出発してみましょう。



紀元前537年

第一次捕虜帰還

クロス王の命令が出されて、イスラエルの民は、本国に戻ることができるようになりました。しかし、すでに長い間、移民の地に適応してしまっていた彼らは、そこに残ったりもしました。彼らのことを「ディアスポラ (Diaspora、散らされた者)」ユダヤ人と呼びました。

参考までに、この「ユダヤ人」という単語は、バビロン捕囚の時期を過ぎてできたことばです。その当時、バビロンは多様な民族を捕虜として捕らえてきていて、これらの中で特にユダ王国から捕えてきた捕虜を「ユダ人」または「ユダの人」と呼びました。そして、ユダ王国の地がペルシャによって「ユダヤ」という名で呼ばれ「ユダ人」が自然に「ユダヤ人」と呼ばれるようになったのです。

ユダヤ人は、三回にわたって帰還しました。最初の帰還は紀元前537年にエホヤキン王の孫「ゼルバベル」がユダヤ総督に赴任して成されました。彼は約4万2千人を越えるユダヤ人を連れて (エズラ 2:64) 帰還しました。そして、長い間捨てられてきたイスラエルの地を掘り起こして、建物を修理し始めました。その中で、何よりも神殿を再建したのですが、どんなに多くの妨害があっても、神様がハガイとゼカリヤ預言者のみことばを通して完工することができるように、力を与えてくださいました。完工した神殿は広さと高さがそれぞれ 27m の大きさの小さい神殿だったのですが (エズラ 6:3-4) 人々は、神様に栄光をささげました。



紀元前458年

第二次捕虜帰還

2回目の帰還は、しばらく後、紀元前458年に、レビ人でありアロンの子孫 (エズラ 7:6) として知られていたエズラの主導で行われました。エズラは、神殿は再建したのですが、神様が願われる生活と信仰生活を回復できない状況を見ました。それで、人々を指導して、みことばを回復して、きよく暮らせるように導きました。

紀元前445年

第三次捕虜帰還

そして、約10年後、紀元前445年には、最後の3回目の帰還が始まりました。これは、ネヘミヤがユダヤの総督として派遣されて行われました。本来、ネヘミヤは、アルタシャスタ王に愛される特別な地位にいたのですが (王への酒を任された長官) ある日、彼はエルサレムの崩れた城壁により、多くの困難があるという話を聞いて悲しみました。そして、彼は王に願って出て、王は直ちにネヘミヤをユダヤの総督として派遣しました。そのようにして、ユダヤに到着したネヘミヤは、エルサレムの城壁を再建することに努めました。彼はいろいろな妨害 (ネヘミヤ 4~6 章) があっても、自分の召命を覚えて、屈せずに城壁再建を成し遂げました。このように、2、3次に渡る捕虜帰還の間、ともに活動した預言者は、旧約の最後の書、マラキ書に登場するマラキ預言者でした。



紀元前356～322年

アレクサンドロス大王とイスラエル

一方、強^{いっばう}力^{きやうりよく}だったペルシャはアレクサンドロス大王^{だいろう みちび}が導^{れんごうぐん}いたギリシャ連合軍^{れんごうぐん}に無^む惨^{ざん}に敗北^{はいぼく}しました。アレクサンドロス大王^{だいろう}は20歳^{わかくさ}という若^{わか}さでしたが、力^{ちから}が優^{すぐ}れていて、ものすごい大きさ^{おお}の土地^{とち}（ギリシャ、エジプト、シリア、ペルシャ）などを、順^{じゆん}に支配^{しはい}していきました。彼はまた、ギリシャの文化^{ぶんか}を愛^{あい}して、自分^{じぶん}が統治^{とうち}する全地域^{ぜんちいき}にこの文化^{ぶんか}を入れることを願^{ねが}いました。それゆえ、彼^{かれ}が統治^{とうち}したすべての所^{ところ}に「ギリシャ語^ご」を使うように命令^{めいれい}し、これを基^{もと}に文化^{ぶんか}を伝^{つた}えました。このことに始まり^{はじり}、人々^{ひとびと}はギリシャ語^ごを日常的^{にちじようてき}な言語^{げんご}として使うようになり、後に、この言語^{げんご}は伝道^{でんどう}の土台^{どだい}になったのです。

しかし、アレクサンダー大王^{だいろう}は32歳^{わかくさ}という若^{わか}さで突然^{とつぜん}、死^しんでしまいました。突然^{とつぜん}の死^しで、後継者^{こうけいしや}が定^{さだ}まっていなかったため、その部下^{けんりよく}であった将軍^{しやうぐん}の権力^{けんりよく}争^{あらそ}いが広がるようになりました。



紀元前301～167年

セレウコス王朝とイスラエル

この争^{あらそ}いは20年間^{ねんかんつづ}続^{つづ}き、結^{けつ}局^{きよく}、各自^{かくじ}の土地^{とち}を分^{わか}けることになりました。イスラエルが属^{ぞく}していた土地^{とち}は、エジプトの一帯^{いつたい}を掌^{しよう}握^{あく}したプトレマイオス将軍^{しやうぐん}と、シリアを中心^{ちゆうしん}に最も^{もつと}広い領土^{りやうど}を占^{せん}領^{りやう}したセレウコス将軍^{しやうぐん}の土地^{とち}の間に置^あかれていて、結^{けつ}局^{きよく}、紀元前^{きげんぜん}198年からセレウコス王朝^{しやう}の支配^{しはい}を受けようになりました。紀元前^{きげんぜん}175年には、アンティオコス4世^{せい}エピファネスという王^{おう}が立^たてられて、状^{じやう}況^{きやう}はさらに悪^{わる}くなりました。この王^{おう}は大祭司^{だいまいし}の職^{しやく}をお金^かで買^かい取^とろうとして、人々^{ひとびと}が拒^{きや}否^ひすると、すぐにエルサレム^{じやうへき}の城^{じやう}壁^{へき}を崩^{くず}して、多く^{おほく}の人々^{ひとびと}を殺^{ころ}すことまでしました。

紀元前167～134年

セレウコス朝とハスモン朝

それだけではなく、アンティオコス4世^{せい}エピファネスは、ユダヤ人^{じん}に割^{かつ}礼^{れい}と安^{あん}息^{そく}日^{にち}を禁^{きん}じ、それを破^{やぶ}ったときは、死^し刑^{けい}にするという法^{ほう}を出^だしました。また、イスラエル神^{しん}殿^{でん}でゼウス神^{しん}に仕^{つか}えるように強^{きやう}要^{よう}しました。このことを怒^{おこ}ったハスモン家系^{かけい}のマタティア祭司^{しやくし}は反^{はん}乱^{らん}を起^{おこ}しました。ハスモンまたは（マカバイ）家系^{かけい}の主^{しゆ}導^{どう}で代^た々の抗^{かう}戦^{せん}したことは、紀元前^{きげんぜん}134年までおよび、結^{けつ}局^{きよく}、勝^{しょう}利^りしました。このようにして、独^{どく}立^{りつ}することになったイスラエルは、これ^こを記^き念^{ねん}して、きょうまで祭^{まつ}り（ハヌカー）として守^{まも}っています。



紀元前134～63年

イスラエル内戦

セレウコス王朝^{しやう}から独^{どく}立^{りつ}したあと、イスラエルはハスモン家系^{かけい}が治^{おさ}めるようになりました。人々^{ひとびと}に尊^{そん}敬^{けい}されて統^{とう}治^ちしていたのですが、次第^{しだい}に権^{けん}力^{りよく}に目^めがくらんで、家系^{かけい}の中^{なか}で争^{あらそ}いが起^{おこ}るようになりました。一方^{いつぱう}、イスラエルの信^{しん}仰^{かう}は、いろいろなグループに分^{わか}かれ、そこでサドカイ人とパリサイ人^{びと}などが登^た場^{じやう}します。彼^{かれ}らは、互^{たが}いに違^{ちが}う権^{けん}力^{りよく}を握^わり、他^わのグループを苦^くしめました。この争^{あらそ}いが大^{おほ}きく広^{ひろ}がり、イスラエルの中^{なか}に戦^{せん}争^{そう}が起^{おこ}るようになりました。



紀元前63年

イスラエルを飲み込んだローマ

そのような中で、地中海全体を掌握していったローマは、シリアを征服しました。そして、紀元前63年、イスラエルの内戦を仲裁しに来たポンペイウス将軍をはじめとして、次第にローマの属国にしていきました。

紀元前37年

ヘロデの家系とイスラエル

イスラエルはローマの属国となり、ローマはヘロデをユダヤの王として立てました。そののち、ヘロデは、33年間、エルサレムを治めました。しかし、彼は残忍なことで有名で、純粋なユダヤ血統ではなく（イドマヤ地域出身）、ローマの操り人形の役割をしていたゆえに、人々の人気はありませんでした。それゆえ、ヘロデは、人気を回復しようと、ゼルバベル神殿を再び立てて建てることに決めました。このようにして登場した「ヘロデ神殿」のことは、新約聖書を通して私たちは良く知っています。

ヘロデの統治が終わって、ヘロデの土地は息子が分け持ちました。特に、ユダヤとサマリア、イドマヤ（エドムのギリシャ語読み）は、ヘロデ・アクラオが治め始めました。しかし、彼の暴政は日が進むにつれ、ひどくなったので、すぐにローマは彼を廃位させて、ローマ本国から総督を別に送って治めました。この総督の中で五人目（26-36年）が私たちが知っている「ポンテオ・ピラト」です。イエス様は、この総督が治める期間に死んで復活されたのです。



STEP 1

ディアスポラ、ユダヤ人は、会堂を作って集まりました。その理由は何か、1サムエル 15章 22節のみことばを見て書いて、フォーラムしてみましょう！

STEP 2

中間期に起こったできごとの中で、教会とローマ福音化の土台となった事件、あるいは人物はだれでしょうか。自由にフォーラムしてみましょう！

STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう

学院福音化のメッセージを聞いて、あらかじめ征服したキリストの奥義は何か、自由に考えてフォーラムしましょう

